

船舶事故等調査報告書

平成21年5月28日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2009横第68号	
事故等名	調査捕鯨船第二勇新丸衝突(氷塊)	
発生日月時刻	平成20年12月19日09時30分ごろ(船内時)	
発生場所	南緯65° 18.9'、東経141° 24.8'	
事故等調査の経過	調査の概要:平成21年3月10日横浜・地方事故調査官が海難報告書を入手し、3月16日船舶所有者から船舶国籍証書、船舶検査手帳、船舶検査証書、修理明細書、損傷写真を入手 原因関係者からの意見聴取:意見なし	
事実情報	調査捕鯨船 第二勇新丸 747トン	
船種・船名・総トン数	137139	
船舶番号	共同船舶株式会社	
船舶所有者等		
船種・船名・総トン数		
船舶番号(IMO 番号)		
船舶所有者等		
乗組員等に関する情報	船長 二級海技士(航海)	
負傷者	なし	
損傷	可変ピッチプロペラ翼 曲損	
事故等の経過	本船は、南氷洋にて調査捕鯨に従事中、氷塊が散在する海域で、ミンク鯨に発砲し命中した。命中後直ちに、鯨と氷塊を避けるため左舷に転舵し、機関を停止したが、平成20年12月19日09時30分ごろ、右舷船尾が氷塊と接触した。水中カメラで推進器を点検したところ、大きく曲損しているのを発見し、平成21年1月5日インドネシア共和国スラバヤ港に入港して修理を行った。 当時の天候は雪、風力4の東の風が吹き、視界3海里であった。	
分析	気象・海象の関与 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 本船は、調査捕鯨に従事中、氷塊を避ける時機が適切でなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が氷塊の散在する海域で調査捕鯨に従事中、氷塊を避ける時機が適切でなかったため、氷塊に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	
その他の事項	なし	